

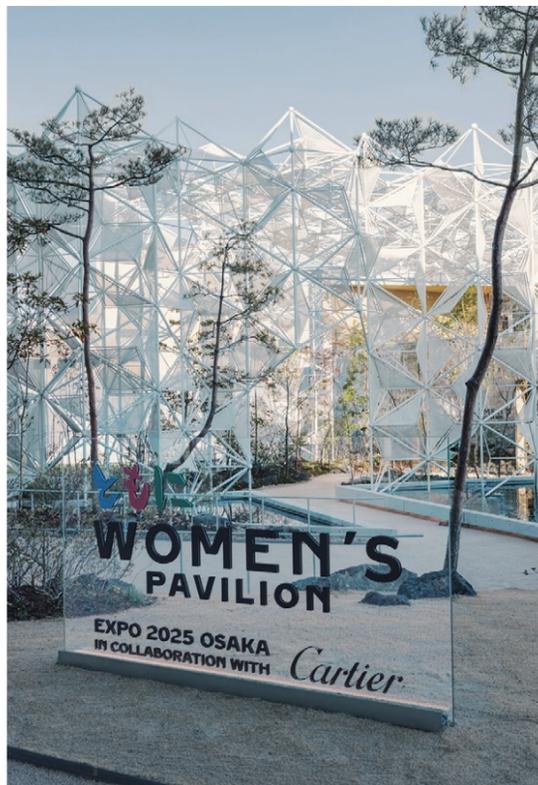
多様な人財が輝く未来を、ともに目指そう！



「WA」スペースで開催されたトークセッション



カルティエ ジャパン プレジデント&CEO宮地純氏(左)と、JAL常務執行役員 西日本支社長の宮坂久美子。©Cartier



ウーマンズ パビリオン。Victor Picon ©Cartier



2023年に開催したアップサイクルワークショップではプレスレットを制作。



2023年開催時の様子(左2点)。2024年のワークショップでは航空路図を再利用。

JALの藤明里機長が登壇 子どもたちの夢を応援!

6月14日、「WA」スペースで「夢を現実に: 障壁を撤廃し、子どもの憧れを叶える」と題したセッションが開催され、日本初の女性旅客機機長であるJALの藤明里(ふじ・あり)が登壇しました。パイロットを目指す中で、どのような困難に直面し、どのように社会のステレオタイプに立ち向かってきたのかを語り、夢に向かう子どもたちへエールを送りました。



SINA ENGIN © Cartier

女性リーダーが活躍するカルティエとJAL

2025年4月、開幕直後の大阪・関西万博「ウーマンズパビリオン in collaboration with Cartier」を会場に、カルティエジャパンプレジデント&CEO宮地純氏と、日本航空常務執行役員 西日本支社長の宮坂久美子によるクロストークセッションが行われました。ウーマンズパビリ

オンは、カルティエが内閣府、経済産業省、博覧会協会とともに出展するパビリオンで、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に寄り添い、「ともに生き、ともに輝く未来へ」のコンセプトの下、女性が多様な変革の力と、よりよい未来を形づくる上での女性のポテンシャルを称えるものです。このパビリオン内に設置された「WA」スペースの初回トークセッションに、宮地氏と宮坂が登壇、「ジェンダー・ダイバーシティの重要性」について語り合いました。

コロナ禍中に始まった2社の交流

異業種でありながらも、「お客さまへ上質なサービスを提供する」という共通点を持つカルティエとJALの交流は、コロナ禍中に数名の客室乗務

員が外向していたことに始まります。その後、SDGsをテーマとした2社交流イベントを実施したり、伊丹空港で航空機の廃材などをアクセサリや雑貨に作り替えるアップサイクルワークショップを共同開催したりと、関係を深めてきました。

多様性が組織を強くする

今回のトークセッションでは、ジェンダー・ダイバーシティに関する両社の取り組みの紹介に加え、商品やサービスの品質向上のために多様性がいかに重要か、という意見交換をしました。「お客さまのニーズや価値観が多様化している現在、それぞれのお客さまに寄り添うためには、社員自身が多様な視点を持つことが重要」(宮坂)、「組織としても多様性を内包することで、新しいアイデアやイノベーションを生み出す土壌ができていく」(宮地氏)といった言葉に、参加者が深く頷く場面も見られました。

多様性を認め合う社会を創るためには、一人一人が意識のスイッチをオンにすることが重要です。JALグループはこれからも、それぞれの社員が自信を持って輝ける企業風土の醸成と、多様化する社会に寄り添うサービスの実現を目指してまいります。

今回のテーマに該当する目標



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

